

長い歴史と伝統を持つイタリア彫刻は、これまでの伝統の理念に則った古典主義から、19世紀末になると表現主義的な風潮に変化していきま

した。メダルド・ロッシ（1858～1928）は、印象派絵画のように光の効果を彫刻に取り入れ、微妙な陰影を表現することで、瞬間の印象を再現しようとした。蝟を使い、細かなところを省いた大胆な表現は、近代イタリア彫刻の先駆として大きな影響を与えました。

アルトゥーロ・マルティーニ（1889～1947）は、伝統的な表現に関心を持ちながらも、様々な思想を学び、具象から抽象まで新たな表現を探索しました。後に、マルティーニがこれまでの伝統を否定した『彫刻—死語』を出版したことは、イタリア彫刻の前衛的な造形の可能性を広げました。

20世紀初頭に起こった未来派運動に参加したジャーコモ・バルラ（1871～1958）は、物体の連続する動きを並べて描く手法を発展させ、抽象的な立体作品を制作しました。伝統の再生と革新の両面において多様性を見せた近代イタリア彫刻をご堪能ください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	メダルド・ロッシ	1858～1928	病める子	1889	25.5×26.0×15.2	石膏, 蝟
2	アルトゥーロ・マルティーニ	1889～1947	ピサの女	1928-30	36.8×133.8×70.9	ブロンズ
3	ジャーコモ・バルラ	1871～1958	ポッチョーニの手の力線	1915	82.3×73.0×25.1	真鍮

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	ジャーコモ・マンズー	1908～1991	椅子	1984	45.5×36.0×30.0	ブロンズ
2	ルチャーノ・ミングッツィ	1911～2004	二人の像	1950	146.2×95.4×68.3	ブロンズ